

令和3年度 園評価

I 経営の重点に関わること

評価段階

A : 大変よくできた B : 概ねよくできた C : あまりできていない D : できていない

教育・保育目標 : やさしい心 元気なからだ 認め合う いろいろなことにチャレンジ 最後までがんばる

重点目標 : 自分で楽しいを見つけよう

評価指標		自己評価
すぐに触れて遊びたいと思う環境を作るよう努めている	子どもの姿から何に興味を持ち何をしたいのか、楽しんでいるか等子どもとの関わりの中で知ろうと努めたが、子どもの思いを読み取れきれないことがあり遊びに応じ環境を変化させたりすることができない部分があった。	B
見つけたことを伝えたい、話したいと思えるような対応をした	子どもの思いを丁寧に聞き、自分から話したい思いを大切にされた。子どもの発見や疑問に対し保育者がすぐに答えるのではなく、もっと子どもたち同士で考え意見を出し合ったり、想像したり、考えたりすること機会をもっと作れたら良かった。	B
<p>改善策（来年度の具体的な取組等）</p> <p>子どもの今の姿や思いや遊びをしっかりと捉え必要に応じ環境の再構成をする。保育者は子どもが自分から話したいと思えるよう子どもの目線に立ち、耳を傾け、安心して話せる関係づくりに努める。クラス内では子どもの今の現状を伝え合うことができたので他のクラスとも共有できるようにする。</p>		

II 施設の機能に関わること

大項目 : 1 こども園における教育及び保育

中項目 : (1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育

評価指標		自己評価
子どもの発達や興味関心に合わせた活動及び遊びが展開されるよう工夫している	子どもの興味関心とあっているか日々振り返り、保育者間で話し合い環境設定したが、遊びが保育者主導になってしまうことがあった。	B
<p>改善策（来年度の具体的な取組等）</p> <p>遊びが子どものどのような学びにつながっているのかを意識できるよう公開保育や園内研修を通し、子どもの思いを読み取る力をつけていく。職員間で共通理解を図るよう努めていく。</p>		
中項目 : (2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮		
一人ひとりの育ちや生活リズムを考慮し、その子の気持ちに寄り添った援助を行うように努めている	一人ひとりの発達や家庭環境を理解し対応した。長時間保育となる子には延長保育時間に安心して過ごせるよう努めた。	B
<p>改善策（来年度の具体的な取組等）</p> <p>一人ひとりに寄り添い良かった事例や見えた課題等、園内研修で具体的に話し合う機会を作る。長時間保育に子どもなど保護者が安心して園へ預けることができるよう伝達をしっかりと行った。</p>		

中項目 : (3)環境を通して行う教育及び保育

「居場所感・安心感」と「夢中・没頭・遊びこむ」ことを保障している	信頼、愛着関係を築く関わりに努め、子どもが好きな遊びや楽しいことを見つけて夢中になって遊ぶ姿を大切にされた。一方、保育者の「こうしなければ」との思いが先行し、子どもが遊びこむことができない場面があった。	B
<p>改善策（来年度の具体的な取組等）</p> <p>保障するための具体的な環境を作り、保育者主導でなく子どもを中心に考えるよう子ども理解できるよう園内研修にて話し合う機会を作る。室内の配置を考え落ち着いた環境を設定する。</p>		

大項目 : 2 安全管理・指導

中項目 : 事故防止・防災

ヒヤリハットの共有や安全点検を通し、子ども達が安全	安全に生活できるよう内容を共有した。しかしヒヤリとすることがあっても記録しないことがあり実状に合わなかったため分析しても正確なものできなかった。	B
---------------------------	--	---

に園生活を送ることができるよう配慮している		
<p>改善策（来年度の具体的な取組等） ヒヤリハットの記録用紙を書きやすいものに変更し、また忘れないように目の着くところに置くようにする。改善策をもっと話し合う職員間ではなしようにする。 訓練は子どもが訓練することに慣れてきているが、子ども、職員共に緊張感を持ち参加できるようにし、子ども自身が危険なことがわかるようにしていく。</p> <p>大項目：3 保健管理・指導 中項目：健康教育の充実</p>		
基本的な生活習慣が身につけ、健康な生活を送ることができるよう配慮している	手洗い、排泄、身の回りの支度等を繰り返し一緒にやり習慣づこう努めた。発達には個人により差があるため一人ひとりに合わせるようにした。自分でしようとしていない子にやる気になるよう促すことが難しかった。	B
<p>改善策（来年度の具体的な取組等） 絵や文字で見てわかるようなものを貼り視覚支援することに合わせ言葉で丁寧に伝えるようにする。自分で考え判断できるよう時間を作る。</p> <p>大項目：4 特別支援教育・保育 中項目：支援体制づくりの推進</p>		
支援体制を整え、家庭や専門機関と連携して、一人一人の発達や特性に合わせた教育・保育に努めている	一人ひとりの発達を担任間で共有し対応に困った場合は相談し共通理解の基、対応した。保護者とはコロナ禍のため話す機会が減り、情報共有が難しかった。気になる子に対し、職員間では書類で確認することが多かったため、他のクラスの様子が見えないことが多かった。	B
<p>改善策（来年度の具体的な取組等） 担任間では情報に共有に努め、保護者とは子どもの様子について話す機会を増やすよう個人面談を実施する。</p> <p>大項目：5 組織運営 中項目：組織体制の充実</p>		
各自が役割に責任を持ち、連携をとりながら働きやすい環境を整備している	役割に責任を持ち取り組むよう努めた。担任間では声を掛け合い連携が取れたが他のクラスとの連携が薄く、特に幼児、乳児での情報共有が難しかった。職員が集まり話し合う機会が減り幼児と乳児で見えない部分が多いと感じた。	B
<p>改善策（来年度の具体的な取組等） 職員が集まらなくても意見を交わしたり連携できるような環境を整備する。業務を円滑に進めるための時間が確保できるよう調整する。</p> <p>大項目：6 研修 中項目：研修体制の充実</p>		
個人で教材研究や研究保育を行い、保育改善に努めている 外部、園内研修で学び合いながら保育の質や専門性の向上に努めている	各自、知識を深め保育改善するよう努めた。園内研修は1回に集まる人数を減らし交代で全職員が参加できるよう複数回行うようにした。参加していない保育者には報告することになっていたが丁寧に行うことができなかった。内容を振り返りとしてクラスの中で反し合い共有することができたら良かった。外部の研修はweb研修を中心に受講し学びに繋がった。	B
<p>改善策（来年度の具体的な取組等） コロナ禍に合わせた研修の方法を考え、報告ができるよう考え保育の質の向上に努める。各自がが研修に意欲をもち無理なく参加できる方法を探る。</p> <p>大項目：7 教育・保育環境 整備 中項目：教育・保育環境の充実</p>		
子どもができた喜びを実感し、試行錯誤したり繰り返し挑戦する姿がある 季節の遊びや発達に応じた遊びが出来る環境が用意さ	子どもが何回も繰り返し試したり考えたりする中でできた姿を十分認めるよう努めた。試したくなる環境を意識し設定したが色々な素材や仕切りなどをもっと用意し、じっくり遊べる環境を作るべきだった。様々な内容の遊びに挑戦する意欲がわくようチャレンジカードを使用した。	B

れている		
<p>改善策（来年度の具体的な取組等） もっとやりたいという思い引き続き大切にし、園内研修や公開保育の中で事例などを伝え合うようにする。来年度もチャレンジカードを使用することを継続し挑戦する意欲に繋がるようにする。</p>		
<p>大項目：8 家庭との連携・協力</p>		
<p>中項目：家庭への支援機能の充実</p>		
<p>保護者との信頼関係を築き、相互理解のもと子どもの育ちを支えるよう努めている お便りや掲示などで園から情報を発信し、子どもの成長の喜びを共有できるよう努めている</p>	<p>連絡ノートアプリ、おたよりに加え、登降園時にも遊びの様子をできるだけ伝えるように心掛けた。掲示物で伝えることがあまりできなかった。写真を使用しての保護者への発信がもっと出来たら園での様子がより伝わったと感じた。</p>	<p>B</p>
<p>改善策（来年度の具体的な取組等） コロナ禍のため保護者が直接園での生活を見る機会がないので玄関への掲示物を利用し園での様子を伝える回数を増やす。保護者へ子育ての楽しさが共有できるような関係づくりに努める。</p>		